

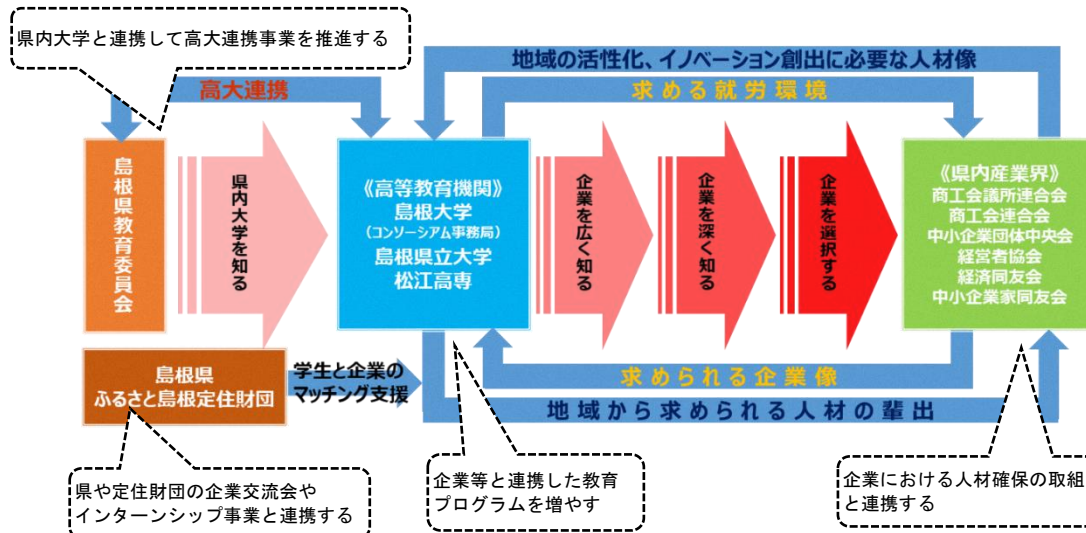
しまね産学官人材育成コンソーシアム

令和6年度事業計画書

# 1. 設立の目的

## (1) コンソーシアムの目的

- ・ コンソーシアムは、島根県内において、産学官の連携の下、地域を支え、イノベーション創出など地域で活躍する若者の人材育成と県内定着を目的とした取組を進めるものとする。(規約第3条)



## (2) これまでの経緯

- ・ 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の流れを受け、令和2年3月26日、「しまね産学官人材育成コンソーシアム」を設立した。
- ・ 令和2年10月30日に島根県教育委員会の参画により、「県内大学を知る」という新たなステージが新設され、高校から県内大学への進学、卒業生の県内就職までの一貫した取組が開始された。
- ・ コンソーシアム参画団体により、各年度事業計画に基づきステージごとに主催事業を企画運営するほか、コンソーシアム企画として、「しまね大交流会」など、学生、企業、教員が関わる事業を企画運営し、関係者の接点作りに努めてきている。
- ・ 本コンソーシアムでは、立ち上げからこれまでの間、県内の若者、企業、各高等教育機関の学生に対して、県内就職率の向上に繋がる要素を探るためのアンケートなどを実施しながら、参画機関等を通じてその結果の周知及び取組の改善を促してきた。
- ・ 令和4年度では、県内就職率向上に繋がる教育プログラムに検証を行いながら取り組む「高等教育機関ワーキンググループ」と、企業のイメージや採用力強化などの向上に取り組む「経済団体ワーキンググループ」を設置した。
- ・ また、令和3年度では、「高等教育のグランドデザイン」を策定し、島根大学において定員増を伴う「材料エネルギー学部」の新設につながった（令和5年4月開設）。
- ・ 令和5年度では、前年度に実施した給与、休暇と採用状況に関する調査を基に、処遇と採用の関係などをまとめた結果の普及啓発、就職活動に関する学生の意識変化を探るためのアンケートなどを実施した。
- ・ また、令和5年度からは、県内の若者が島根に定着することを目的とし参画団体が独自に企画運営する「若者定着促進事業」を募集し、コンソーシアムとして助成する制度をスタートした。

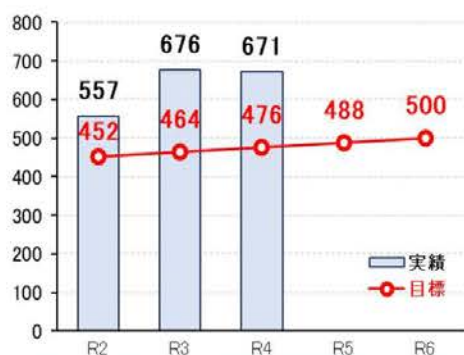
■最上位KPIとステージごとのKPIの状況

「しまねで活躍したい若者」を増やし持続可能な地域づくりを実現

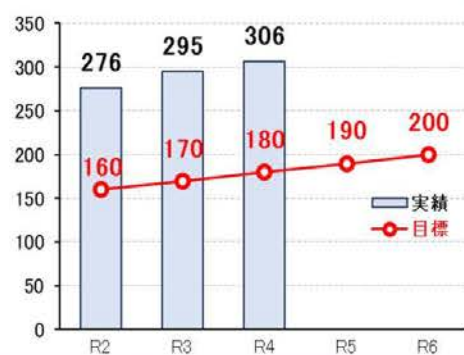
県内高等教育機関の県内就職率



県内事業所へのインターンシップ等参加学生数



インターンシップ等受入企業研修会への参加企業数



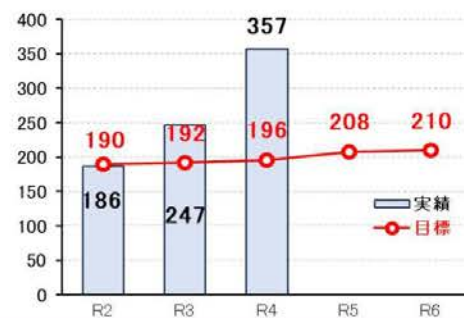
ステージ④

企業を  
選択する

企業等と連携した教育プログラムへの参加学生数



企業等と連携した教育プログラムへの参加企業数



ステージ③

関心の高い  
企業を  
深く知る

ステージ② 県内企業を広く知る

企業見学ツアー及び交流会の参加学生数



ステージ① 県内大学を知る

高大連携事業の促進

## 2. 令和5年度の活動と課題について

### (1) コンソーシアムのKPIと現況

#### ・ 県内就職率の目標値

KPI	前年同期実績値 (令和4年度)	現況値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)
県内高等教育機関卒業生の県内就職率(就職決定者のうち県内就職者の割合)	31.6%	30.3%	38.5%	39.4%

#### ・ 県内就職率の目標を達成するための各ステージの取組と目標値

ステージ	KPI	前年同期実績値 (令和4年度)	現況値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)
②島根の企業を広く知る	企業見学ツアー及び交流会の参加学生数	1,046人	938人	770人	795人
③関心の高い企業を深く知る	企業等と連携した教育プログラムへの参加学生数	2,920人	2,955人	2,238人	2,278人
	企業等と連携した教育プログラムへの参加企業数	343社	337社	208社	210社
④企業を選択する	県内事業所へのインターンシップ等参加学生数	532人	494人	488人	500人
	インターンシップ等受入企業研修会への参加企業数	252社	242社	190社	200社

※ステージ①「県内大学を知る」については、数値目標は設けず実施する。

※前年同期実績値(令和4年度)は令和5年2月1日時点の数値

※現況値(令和5年度)は令和6年2月1日時点の数値

## (2) 令和5年度事業実績（トピックス）

### ① 高大連携推進員の配置（ステージ1）

令和5年度は新たな取組として、高校生を対象とした、探究学習や進路を考える際に役立つ放課後・休日における講座等（「あなたの背中そっと押しますプロジェクト」）を、県内大学の協力を得て、高大連携推進員が企画・実施した。

県内大学の学部・学科の学びに関連した講座等のほか、学生による学部・学科を紹介する講座のシリーズ化など、令和5年7月の開始以降、30講座を実施し、延べ374人の高校生が参加した。（令和6年2月7日時点）

「大学生の話聞いて自分の進みたい道が見つかった」といった参加者の声から、講座等を通じて、生徒自身が進路についてより具体的にイメージし、考えるきっかけとなったことがうかがえる。

### ② しまね大交流会の対面開催（ステージ2～3）

令和4年度に引き続き、対面式によるしまね大交流会を開催し、若者887人を含む1,444人の集客や、139の出展者（企業・団体・自治体：113、大学・高専等：26）の参加があった。

ジョブカフェ就活セミナーを同時開催し、参加学生に対して興味の高い分野をチェックしながら、出展ブースとの関連性を確認しながらブース訪問ができるよう工夫した。

学生に対し事前、事後にアンケートを取ったところ、「島根には魅力的な仕事がある」への肯定回答率は61%から87%へ、「島根で働きたい」への肯定回答率は48%から58%へ、「島根で暮らしたい」への肯定回答率は53%から60%へ、それぞれ増加し、昨年度と同様に若者への意識変化に一定の効果を示した。

### ③ 県内就職率アップに向けた学生・企業・教員の交流

就活直前の両大学3回生を中心に提案された「志望する企業像」をテーマとして、学生と企業人事担当者による意見交換（松江・浜田）や、就活生の相談に直面する各機関の就職相談員、就職支援部門の職員と教員及び企業人事担当者による「就活生への支援」をテーマとした意見交換を実施した。両イベントを通じて、それぞれの意識や現状を共有し、改善に向けた行動につながるよう取り組んだ。

### ④ 教育プログラムの効果検証（高等教育機関WG関連）（ステージ2～3）

各高等教育機関の状況に応じて、データを活用した定量的な調査、アンケート調査や電話などによるヒアリング調査などにより定性的な検証を行っている。詳細な分析に取り組んでいるところだが、企業と学生が直接関わる教育プログラムが学生の県内就職意識に一定の影響を与える可能性があることはこれまでも確認してきており、引き続きプログラムの改善につなげていくよう取り組む。

#### i) 島根大学

前期・後期の履修登録のタイミングで学務情報システムを活用し、学生個別の就職希望地の変化と履修している教育プログラムの関係を調査。

ii) 島根県立大学

島根県内での就職意識に関する島根県外出身者への就職内定者調査。

iii) 松江高専

対象授業に参加した学生と、内定者に向けたアンケート調査。

⑤ 「学生に届く求人、響く求人」への対応（経済団体WG関連）（ステージ4）

令和4年度に県内高等教育機関の学生の採用実績がある県内企業などを対象に実施した「求人情報実態アンケート調査」を基に、給与がやや低めでも学生を採用できている企業の特徴などをまとめた。こうした企業では、年間休日数の確保、有給休暇の取得促進及びそのために必要な企業全体での取組を通じて、働きやすい職場環境を形成し、それが就活生に対するアピールに繋がっていた。こうした実情をPRチラシを作成・配布し県内企業への周知に努めた。

また、数は少なく対象が島根大学に限られるものの、留学生の県内就職の現状の共有や、実際に留学生を採用している企業の実例紹介を通じて、今後の取組について検討し、留学生の県内就職増加に向けた課題を共有した。

⑥ キャリア支援に関するアンケート、若者定着促進事業

島根大学・島根県立大学の最終学年を対象とした「キャリア支援に関するアンケート調査を実施。今後詳細な分析を加えて、効果的、効率的なキャリア支援につなげられるよう生かしていく。

令和5年度から、県内の若者が島根に定着することを目的として参画団体が独自に企画運営する「若者定着促進事業」を募集し、コンソーシアムとして助成する制度をスタートした。年度後半からの事業実施となり、参画団体の事業検討期間が限られたことから、計画的な事業実施につながるよう令和6年度から改善する。

(3) 県内就職率の現況値と分析

- 令和5年度における現況値は、30.3%となり、前年同期と比較して、1.3P減少した。ただし、今後、看護師をはじめとする資格職の国家試験などの実績や、就職希望者のうち未内定者及び未報告者（約300人）の動向によって変動すると推察される。
- 状況を各機関別に見ると島根大学は22.2%、島根県立大学は41.1%、松江高専は21.5%となっている。

区 分	全体	島根大学	島根県立大学	松江高専
令和5年度 現況値	342人 (30.3%)	115人 (22.2%)	201人 (41.1%)	26人 (21.5%)
前年同期実績値	366人 (31.6%)	140人 (24.6%)	200人 (40.7%)	26人 (26.8%)
前年度比増減	▲24人 (▲1.3%)	▲25人 (▲2.4%)	1人 (0.4%)	0人 (▲5.3%)

### ① 島根大学

- ・ 島根大学においては、教育学部の県内就職率が41.0%（前年同期：42.5%）、総合理工学部の県内就職率が16.7%（前年同期：20.5%）、生物資源科学部の県内就職率が11.0%（前年同期：23.0%）と前年同期と比較して減少している。
- ・ 一方、法文学部の県内就職率が24.3%（前年同期：20.1%）、人間科学部の県内就職率が30.2%（前年同期：28.0%）と、増加傾向となった。
- ・ 令和5年度に卒業する学生の県内出身者数は、直近5年で最も少なく、これが県内就職率の減少に影響していると考えられる。
- ・ 令和6年度も引き続き学務情報システムを活用して学生の就職希望地の変化を把握していくとともに、県内就職を希望している学生に対する個別面談などのフォロー体制を強化していく。

### ② 島根県立大学

- ・ 総合政策学部は23.6%と前年同期より3.3P増加している。
- ・ 看護栄養学部看護学科は49.4%と前年同期より2P増加し、健康栄養学科は34.2%と前年同期より10.5P減少、別科助産学専攻は41.7%と21.9Pの減少となっている。
- ・ 人間文化学部保育教育学科は73.2%と前年同期より33.7P増加し、地域文化学科は45.3%と前年同期より3.3P減少となっている。短期大学部保育学科は67.5%と前年同期より16.7P減少し、総合文化学科は60.0%と前年同期より11.4P減少している。
- ・ 全体として、島根県立大学の県内就職率は41.1%と前年同期より0.4P増加している。引き続き、県内出身者のみならず、県外出身者についても県内企業との接点を創出し、県内企業を知る機会を増やしていく。

### ③ 松江工業高等専門学校

- ・ 松江高専では前年同期より県内就職率の減少が見られた。ただし、今回の数値は現況値であり、最終確定値は変動すると見られる。各学科の県内就職者は3人から7人であるが、例年学科ごとに増減があるため、令和6年度も大きく変化することはないと予想される。また近年、進学希望者の割合が微増しつつある。
- ・ 令和6年度も、令和5年度と同様に3年次に島根県商工労働部雇用政策課と共同で、県内企業との交流会を2回実施し、また、ふるさと産業学を選択履修した40人の学生に対しては企業見学バスツアーを同課の協力のもと実施していく。さらに、3年生のふるさと産業学履修者40人および、4年次、4年生全員が必履修科目である地域社会とエンジニアの授業内でしまね大交流会への参加を推奨し、県内企業の理解を深めていく。

#### (4) 県内からの入学者比率について

区 分	全体	島根大学	島根県立大学	松江高専
令和5年度実績値	798人 (40.2%)	327人 (26.7%)	293人 (52.6%)	178人 (87.3%)
令和4年度実績値	708人 (36.3%)	272人 (23.1%)	272人 (47.0%)	164人 (84.5%)
前年度比増減	90人 (3.9%)	55人 (3.6%)	21人 (5.6%)	14人 (2.8%)

※松江高専については3年次から4年次の進級段階の数値

##### ① 島根大学

- ・ 令和5年度における県内からの入学者は327人（令和4年度実績272人）となり、入学者全体に占める割合は26.7%（令和4年度実績23.1%）で、前年度より増加した。背景として、人間科学部を除いた学部における県内からの入学者の増加や材料エネルギー学部の新設が挙げられる。

##### ② 島根県立大学

- ・ 令和5年度における県内からの入学者は293人（令和4年度実績272人）となり、入学者全体に占める割合は52.6%（令和4年度実績47.0%）で、前年度より増加した。背景の一つとして、看護学科（出雲）、地域文化学科・短期大学部（松江）では県内からの入学者が前年度比4～15名増加し、県内入学率を底上げした。今後も、本学を第一志望とみる意欲的な生徒の増加・確保が必要と考える。そのためにも、高大連携の取組をより強固にし、高校から大学への学びの連続性確保が重要と考える。更に、高校訪問での進路指導教員や主幹教諭等との綿密な意見交換、本学依頼型の高校内単独説明会の開催等、より積極的な働きかけや広報により、本学の魅力の「見える化」を推進していく必要がある。

##### ③ 松江工業高等専門学校

- ・ 令和5年度は178人（87.3%）と令和4年度の84.5%から微増した。直近となる過去4年分を比較すると、令和2年度179人（88.2%）、令和3年度181人（91.9%）、令和4年度164人（84.5%）となっており、令和5年度は令和2年度に近い数値である。過去にも微増、微減を繰り返しているため、その範疇に含まれるものと考えている。なお、本校における県内からの入学者比率については3年次から4年次における進級段階の数字となっている。



### 3. 令和6年度事業計画

#### (1) 各ステージにおける取組概要

##### ① 県内大学を知る

###### ア) 概要

島根県教育委員会と県内大学の連携強化のための体制構築などにより、県内の高校生が県内大学を知る取組を強化する。(事業費：247,014千円 ※島根県教育委員会実施事業)

###### イ) 具体的取組

###### i) 県立高校に高大連携を推進するための人材を配置する (※島根県教育委員会実施事業)

###### ○ 主幹教諭の配置

- ・ 学校全体での授業改善や地域との協働に加え、県内大学などとの高大連携や入試改革に適応した取組を推進するため、引き続き教科・分掌の垣根を越えて校内をリードできる職階の主幹教諭を全普通科高校に配置する。

###### ○ 高大連携推進員の配置

- ・ 県内大学への理解・関心を深める取組を行うため、引き続き県内大学のキャンパスが所在する松江、出雲、浜田に各1人配置する。
- ・ また、島根大学材料エネルギー学部をはじめとした理系学部との連携強化のための高大連携推進員を1人配置する。
- ・ 令和5年度より実施した、県内の高校生を対象とする、探究学習や進路を考える際に役立つ放課後・休日における講座等(「あなたの背中そっと押しますプロジェクト」)を、引き続き、県内大学と協働して、高大連携推進員が企画・実施する。

###### ○ 専門高校への理数教科の教員の配置【拡充】

- ・ 理数教科の常勤教員を7校、非常勤教員を2校に配置し、大学進学を目指せる学力の育成により進路選択の幅を拡げる機会の充実を図る。

###### ○ 「オンライン進路探究ゼミ」の実施

- ・ 県内大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等への出願を検討している高校3年生を対象とした、進路探究プログラム「オンライン進路探究ゼミ」を、引き続き実施する。

###### ○ 「しまね探究フェスタ」の実施

- ・ 高校生が、探究学習における学びを共有し合うことで、探究学習の楽しさを知り学びに向かう意欲を喚起するとともに、学校や地域がともに探究学習のあり方を考えることで、各校の探究学習の質を高める機会として「しまね探究フェスタ」を実施する。
- ・ 大学教員や大学生からの専門性を活かした助言を得ることで、高校生が大学での学びの見通しを持つとともに、高校生の探究を支える大学教員、大学生、高校教員等が、所属や立場を越えた対話・交流の機会とする。

- ・ 令和6年度は、島根県立大学浜田キャンパスを会場とし、高校生が実際に大学を訪れ、大学の雰囲気に触れる機会を創出する。

ii) 県内大学において、高大接続事業を実施する

県内大学のアドミッション部門などが島根県教育委員会と連携しながら、大学訪問や出張講義などを実施する。また、関係機関が集まり、高大接続事業を推進するための情報を共有する場を設ける。

大学訪問では、高校生が大学を訪れる中で、大学の概要や学部による体験授業、施設見学などを行い、出張講義では大学教員が高校などへ出向き、講義を行うなどの高大連携事業を通して、大学進学への目的意識、意欲、動機付けを強化する。

大学等	連携	事業名称	実施時期
島根大学	島根県教育 委員会	大学訪問	6～10月
		出張講義	6～10月
島根県立大学		大学訪問	6～10月
		出張講義	6～10月

iii) 専門高校に向けたキャリアパスの提示【拡充】

専門高校から県内大学に入学した学生へのインタビュー動画により、専門高校から大学へ進学した際のアドバンテージや就職像などを専門高校の生徒に引き続き周知することで、アプローチの強化を図る。

また、島根大学では、令和6年度に実施する総合型選抜Ⅰ「へるん入試」の専門高校入試で枠を拡大（人間科学部を追加）する予定であり、入試広報の中で、専門高校入試の説明を強化していく。

iv) その他の高大連携活動

○ 島根大学

- ・ オープンキャンパスを開催し、各学部や学科の紹介、模擬授業、入試相談などを実施する。
- ・ 理系学部を中心に、県内高校生向けの体験型学習として研究室訪問の実施や、県内高校のSSH事業に対して課題研究への助言・指導などを通して、高大連携の取組を強化する。

○ 島根県立大学

- ・ 各学部、学科、コースの説明、模擬講義等を、オープンキャンパス等の機会を設けて実施する。
- ・ 県内高校の探究学習の成果発表会等における講評等、県内高校の魅力化コンソーシアムへの参画、県内高校生向けの研究室の訪問受け入れ等を通して、高大連携の取組を継続

する。

- ・ 高校の求めに応じて、大学生活の様子や高校時代における進学の実績等をテーマに、大学生と高校生が交流する機会を設ける。
- ・ 県内各自治体、県内高校、高大連携推進員等と連携をして、県内高校生向けに島根創生を担う人づくりプログラムを実施する。

#### ウ) その他

##### ○ 「県内大学を知る」取組に関する事業実績確認方法の検討

島根県教育委員会や県内大学で行っているステージ1（県内大学を知る）に関する取組を通して、県内高校生に対して県内大学での学びや魅力を知る機会を創出できているかどうか、県内大学や島根県教育委員会と事業実績確認方法について引き続き検討していく。

#### ② 県内企業を広く知る

##### ア) 概要（事業費：6,439千円 ※島根県実施事業）

各高等教育機関において企業交流会やバスツアーなどを企画・実施し、島根の企業を知る機会を広く提供する。

##### イ) 具体の取組

大学等	事業名称 (対象年次)	実施 時期	参加学生数（上段） 参加企業等数（下段）
島根大学	企業見学ツアー (1、2年次)	5～11月	140人程度 15社程度
	学生×社会人交流会 (1、2年次)	通年	70人程度 15社程度
島根県立大学	企業見学ツアー (1、2年次)	6～9月	30人程度 8社程度
	学生×社会人交流会 (1、2年次)	通年	100人程度 15社程度
松江高専	企業見学ツアー (2～4年次及び専攻科)	6～10月	30人程度 8社程度
	学生×社会人交流会 (3年次)	6、2月	400人程度 10社程度

(注) 参加企業等には、NPOや自治体を含む

※「②島根の企業を広く知る」、「③関心の高い企業を深く知る」、「④企業を選択する」の各ステージの事業が連続性を持てるよう工夫して実施する。

#### ③ 関心の高い企業を深く知る

##### ア) 概要（事業費：24,810千円 ※コンソーシアム実施事業）

企業と学生が直接関わる教育プログラムが学生の県内就職への意識に一定の影響を与えると考えられることから、各高等教育機関で実施している検証結果を、高等教育機関WGにおいて分析・共有しながら、効果的な教育プログラムを企画実施する。検証結果は、各高等教育機関でプログラムの効果向上に向けた「カイゼン」に活かすとともに、他の委員会・WGとも共有し、各取組の効果向上に資するよう連携する。

また、協働教育コーディネーターと連携して企業や学生、大学などの教職員の相互理解の促進を図ること及びしまね大交流会を企画・実施する。

## イ) 具体の取組

i) 各高等教育機関の教育プログラムにおいて、企業と連携した授業などを実施する。

大学等	教育プログラム名 (対象年次)	実施 時期	参加学生数 (上段) 参加企業等数 (下段)
島根大学	キャリアデザインプログラム (1～4年次)	通年	1,164人程度 20社程度
	キャリアデザインプログラムプロジェクト (1～4年次)	通年	80人程度 14社程度
	地域人材育成コース (1～4年次)	通年	288人程度 20社程度
	地域人材育成コースプロジェクト (1～4年次)	通年	36人程度 7社程度
	地域人材育成コース地域共創インターンシップ (2～3年次)	通年	30人程度 20社程度
	県内企業等研究活動支援事業 (公募により学部企画支援)	通年	310人程度 30社程度
島根県立大学	共同研究事業 (1～4年次)	通年	120人程度 15社程度
	長期実践型キャリア教育 (旧称：長期実践型インターンシップ) (1～4年次)	通年	10人程度 5社程度
	しまね地域マイスター課程 (2～4年次)	通年	5人程度 5社程度
	キャリアデザインⅡ (2年次)	4～9月	20人程度 2社程度
松江高専	ふるさと産業学 (3年次)	後期	35人程度 2社程度
	地域社会とエンジニア (4年次)	後期	80人程度 10社程度
	地域インターンシップ	8～9月	100人程度

	(4～5年次)		60社程度
--	---------	--	-------

(注) 参加企業等には、NPOや自治体を含む

ii) 協働教育コーディネーターは下記活動を通して、企業や学生、大学などの教職員の相互理解の促進を図る。

○ 就職先県内企業の開拓

県内企業への訪問などを通じて各企業の大学生採用に関するニーズ調査（どのような学生を採用したいか）を行い、その情報を県内大学の学生へフィードバックしていく。また、企業訪問の際には県内大学での学びや取組を積極的に情報提供し、県内大学生などの採用促進を図る。

○ 県内就職に寄与する就職イベントの企画運営

企業と学生、企業と大学教職員などとの意見交換会を実施し、企業と学生・大学教職員との接点をより多く作り出すと同時に、企業が学生の就職・働き方に関する価値観や大学での学びを知る機会を創出していく。また、そういった意見交換会の場に各高等教育機関などの就職相談員の参加を促し、企業担当者との人脈形成を促進し、マッチングの強化に繋げる。

・ 学生の「理想的な働き方」や「魅力的な企業」についてのリアル意見交換会

今の学生が働きたいと思う企業像について、魅力的な働き方や福利厚生などに関する意見交換を通して、企業が学生の価値観を知り、企業の採用面や働き方改革の取組へのきっかけとなる機会を創出するとともに、企業と学生との緩い接点を創出する。【実施予定時期：2024年6月～7月】

・ 企業と大学教員と就職相談員の意見交換会

企業と県内大学の教職員、県内大学などの就職相談員が意見交換を行うことにより、企業と学生のニーズをお互いに共有し、県内就職を希望する学生の県内定着に繋げていく。あわせて、県内大学などの就職相談員が県内企業や教職員との人脈を広げる機会とし、マッチングの強化にも繋げていく。【実施予定時期：2024年9月】

・ 最高の自社・自己発見ツアー

模擬採用面接を通して、企業と学生が共に感じたことをお互いにフィードバックし合うことで、企業側にとって新たな発見を促し、企業の魅力化向上に繋げていく。開催にあたっては、学生と企業の人事担当者が参加しやすいよう開催時期などを工夫する。

iii) しまね大交流会実行委員会を組織し、しまね大交流会を実施する。

- ・ 県内高等教育機関の就活前の比較的低学年の学生や高校生を対象に、「しまねで暮らす」「しまねで働く」イメージの醸成につながる取組を実施する。
- ・ 県教委と連携して県内高校の意向などを踏まえながら、「県内大学を知る」取組としての県

内大学の学生による所属学部・学科の魅力紹介ブースを設定する。

- ・ しまね大交流会の開催にあたり、企業などのニーズに応じた各種研修会、セミナーなどを実施する。

しまね大交流会	実施時期	令和6年11月2日
	場所	くにびきメッセ
	目標	【来場者数（学生・生徒）】：1,300人 【出展数（企業）】：110社 ※企業出展料：4万円／1ブース

#### ④ 企業を選択する

ア) 概要（事業費：18,978千円 ※島根県実施事業）【拡充】

- ・ 学生のニーズに対応したインターンシップ、仕事体験、長期有償仕事体験（以下「インターンシップ等」という。）を実施することで、県内企業を選択する機会を広く提供し、県内就職を促進する。
- ・ インターンシップ等の「量」の拡充及び企業向けセミナーやプログラムチェックシートの活用を通じて企業のインターンシップ等プログラムの「質」の向上を進めていく。
- ・ 各高等教育機関は学生の県内でのインターンシップ等が増加するよう積極的に取り組み、各経済団体はインターンシップ等の「質」の向上に繋がるセミナー情報及びプログラムチェックシートの活用を企業に周知宣伝する。

##### i) インターンシップ等

- ・ ジョブカフェしまねでは、三省合意の改正を踏まえて、引き続き「しまね学生インターンシップ」、「しまね短期仕事体験」、「しまね1Day 仕事体験」を実施する。
- ・ 「しまね短期仕事体験」については、実施期間を原則3日以上に短縮することで、これまで参加のハードルが高いと感じていた学生や企業の参加を促すとともに、複数事業所で仕事体験ができるパッケージ型のプログラムを企画することで、参加学生の増加及び企業と学生のマッチング率の改善を図る。
- ・ 長期有償仕事体験は参加を希望する学生や企業に参加の機会を提供する。
- ・ インターンシップ等や仕事体験への学生の参加を促すための説明会を開催する。また、県内大学キャリアセンターと連携し、積極的に周知及び宣伝を行う。
- ・ インターンシップ等受入企業のプログラム充実のための企業向け研修会、インターンシップ等の改善支援、インターンシップ等プログラムや参加学生の声を共有する機会を提供する。

##### ii) 就活期の取組

- ・ 卒業前年度の10月から卒業年度の9月までを「就活期」と定義した上で、オンラインを活用した情報提供や合同企業説明会などを企画・実施する。

- ・ インターンシップ等を通じて学生と企業との接点を増やす。なお、各高等教育機関と島根県は就職活動開始の段階で開催されるキャリアガイダンスにおいて、これらのイベントなどがあることを学生に周知宣伝する。

イ) 具体の取組

- i) インターンシップ等を企画・実施するとともに、就活期の学生に向けた企業交流会、合同企業説明会等を企画・実施する。

事業名	実施時期	場所	参加学生数（上段） 参加企業等数（下段）
インターンシップ等説明会	6月、11月	—	80人程度 40社程度
しまね学生インターンシップ	8～9月	県内各所	100人程度 150社程度
しまね短期仕事体験	8～9月 2～3月	県内各所	300人程度 150社程度
長期有償仕事体験	10～12月	県内各所	10人程度 5社程度
学生×社会人交流会	10～3月	県内各所	100人程度 20社程度
企業の紹介動画配信 (WEB)	4～9月 10～3月	—	視聴数：4万回 200社程度
学生と企業の交流会 (対面)	12月	松江	350人程度 150社程度
しまね1Day仕事体験	10～2月	県内各所	320人程度 140社程度
業界研究会 (対面、オンライン)	2月	県内各所	200人程度 100社程度
合同企業説明会 (対面)	3月	松江	350人程度 200社程度

- ii) インターンシップ等受入企業のプログラム充実のための企業向け研修会を企画・実施する。  
また、インターンシップ等プログラムの好事例や、全国の学生の動向などを紹介する。

事業名	実施時期	場所	参加学生数（上段） 参加企業等数（下段）
インターンシップ等受入企業向け研修会(対面)	6～7月 1～2月	県内各所	— 100社程度

採用力強化セミナー (オンライン)	7～9月	オンライン	— 100社程度
----------------------	------	-------	-------------

(2) ステージを横断的に取組む内容

① 学生を対象としたイベントの効果最大化【新規】

- ・ コンソ賛助団体向けに、企業が利用できる各種採用関連研修や学生との接点拡大につながるイベントを一覧的に利用できる「イベントカレンダー」を作成し、企業の採用活動の支援につなげる。
- ・ しまね大交流会やしまねジャンボ企業博など、学生が広く県内企業の魅力を知ることができるイベントは、学生が県内企業に興味を持つきっかけとなる非常に重要な取組であるため、コンソーシアム内での連携をさらに深めることを目的として「イベント担当者会議」を定期的で開催する。この会議を通じて、各イベント実施主体が直面する課題などを共有し、連携・協力できる仕組みを作り上げていく。

② アンケートの活用

令和5年度に実施した「学生の就活実態アンケート」を分析し、より効果的に学生に情報を届ける手法の検討・実施や、企業の魅力アップにつながるアクションを促していく。

③ 若者定着促進事業【拡充】

コンソーシアム参画団体が独自に実施する若者の県内定着に資する事業を募集し、効果的な事業に対して支援する。



### (3) 年間スケジュール

	②島根の企業 を広く知る	③関心の高い 企業を深く知る	④企業を選択する				
			低学年次	卒業前年次	卒業年次		
4月	企業見学 ツアー	企業などと 連携した 教育プログラム 【通年】			合同企業説明会 (オンライン)		
5月							
6月			インターンシップ等説明会	就職フェア (国事業)			
7月							
8月			しまね学生インターンシップ(3年次) しまね短期仕事体験(1~3年次)	就職フェア (国事業)			
9月							
10月			学生×社会人 交流会	長期有償 仕事体験	しまね1Day 仕事体験	合同企業説明会 (オンライン)	就職フェア (国事業)
11月		しまね 大交流会		インターンシップ等説明会 (オンライン)			
12月				学生と企業の交流会 (対面)			
1月	学生×社会人 交流会 【通年】						
2月				業界研究会 (対面、オンライン)			
3月		しまね短期仕事 体験(1~3年次)			合同企業説明会 (対面)		
			成果報告会				

※「①県内大学を知る」については、年間を通して島根県教育委員会と県内大学が連携して高大接続に関する取組(大学訪問、出張講義)などを実施する。

#### 4. 組織体制

##### (1) 参加団体（規約第2条）

コンソーシアムは、しまね産学官人材育成コンソーシアムに関する包括協定を締結した下記に掲げる団体により構成する。

区分	参加団体名
高等教育機関	島根大学
	島根県立大学
	松江工業高等専門学校
経済団体	島根県商工会議所連合会
	島根県商工会連合会
	島根県中小企業団体中央会
	島根県経営者協会
	島根経済同友会
	島根県中小企業家同友会
その他団体	ふるさと島根定住財団
行政機関	島根県
	島根県教育委員会

(以上 12 団体)

##### (2) 賛助団体（規約第11条）

コンソーシアムの目的に賛同し、共同代表が承認した企業・NPO法人等を賛助団体とすることができる。

賛助団体は、コンソーシアムの運営や事業の企画・実施に対し、支援・協力する。

賛助団体には、コンソーシアムの運営や事業に関する情報提供を行う。

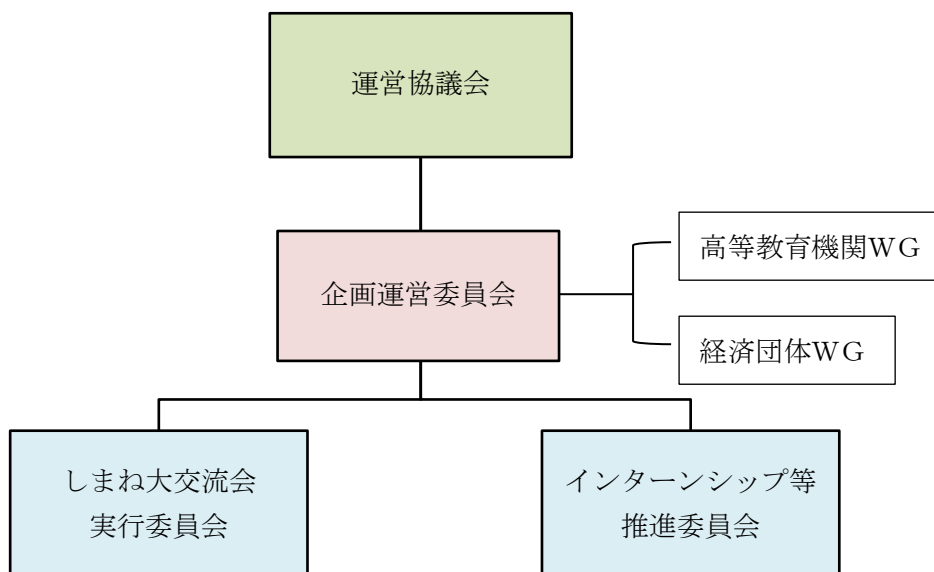
###### 【募集要件等】

- ・ コンソーシアム事業に賛同する企業・NPO法人等
- ・ 会費は年間1口1万円とする。ただし、口数の上限は設けない。
- ・ 賛助団体はコンソーシアムにおいて行う学生との交流会や企業と連携した教育プログラム、大学キャリア担当教員との懇談会等へ参加可能。また、しまね大交流会への出展（出展料別途必要）が可能。

###### 【実績及び募集スケジュール等】

- ・ 令和5年度は令和5年4月より募集を開始し、計177団体が参画した。
- ・ 令和6年度は令和5年度の賛助団体に対し継続依頼を行うとともに、令和6年4月以降に新規会員の一次募集を開始する。

(3) 執行機関



区分	設置機関	所掌事項
総会	運営協議会 (規約第5条)	コンソーシアムの意思決定機関として、規約の改廃、役員選出、事業計画及び予算、決算の承認等を行う。
委員会 (規約第12条)	企画運営委員会	コンソーシアムにおける各事業の全体調整とKPIの進捗管理を図りながら、事業計画及び予算の立案と事業評価を行う。
	しまね大交流会実行委員会	しまね大交流会の企画・実施を行う。
	インターンシップ等推進委員会	インターンシップ等の充実に向け、関係機関での協議を行う。
事務局 (規約第13条)	コンソーシアム事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携・調整のマネジメント、事業の企画・運営などを行う。</li> <li>・会議の運営、予算管理、連絡調整、情報発信等を行う。</li> </ul>

※企画運営委員会の下部WGとして、高等教育機関WG及び経済団体WGを設置している。

(4) 事務局体制

○設置場所 島根大学

<p>事業推進統括コーディネーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンソーシアム事務局運営の統括</li> <li>・ コンソーシアム事業全体のマネジメント及び進捗管理</li> </ul>
<p>事業推進コーディネーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンソーシアム事務局運営に係る参加団体との連絡調整</li> <li>・ コンソーシアム各種事業実施に係る参加団体との連絡調整</li> <li>・ 事業計画書及び事業評価書の作成</li> <li>・ 運営協議会及び企画運営委員会の運営</li> <li>・ 県内就職率等K P I の状況管理</li> <li>・ 賛助団体の募集及び賛助団体との連絡、調整</li> </ul>
<p>企画プロデューサー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内就職率等K P I 達成のため実施する事業（教育プログラムを含む）の企画</li> <li>・ 各種事業の検証、改善提案</li> <li>・ 事業成果報告会の企画、実施</li> <li>・ コンソーシアム各種委員会への参画</li> <li>・ 企画運営委員会の下部WGの運営</li> <li>・ しまね大交流会の企画</li> </ul>
<p>協働教育コーディネーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職先県内企業の開拓</li> <li>・ 人材定着に関する企業ニーズの把握（意見交換会の開催など）</li> <li>・ 県内就職に寄与する就職イベントの企画運営等</li> <li>・ 企業、各高等教育機関と学生の連絡調整</li> </ul>
<p>事務職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議運営、情報発信、予算管理、執行、負担金等の収納など事務全般</li> <li>・ 賛助団体の登録、管理</li> </ul>

5. 令和6年度予算案

(1) 収入

(単位：千円)

項目	R6 予算額	R5 当初予算額	増減	内 訳
1) 負担金	42,290	41,974	316	島根県 25,280、島根大学 11,790、県立大学 1,997、松江高専 1,733、経済団体・定住財団 490、島根県教育委員会 1,000
2) 賛助会費	2,570	2,360	210	10千円×257口(177団体)
3) 出展料	4,400	4,000	400	出展料 40千円×110社
4) 前年度繰越金	8,879	12,027	▲3,148	
合 計	58,139	60,361	▲2,222	

(2) 支出

(単位：千円)

項目	R6 予算額	R5 当初予算額	増減	内 訳
1) 事業費	32,239	32,786	▲547	
①教育プログラム実施費	9,000	9,000	0	委託費(島根大学、県立大学、松江高専)
②教育プログラム開発費	6,965	6,649	316	委託費
③しまね大交流会開催費	9,000	9,000	0	印刷費、委託費、使用料
④その他事業費	7,274	5,000	2,274	若者定着促進事業、企業向け研修費、WG関係費、広報費
⑤予備費	0	3,137	▲3,137	
2) 事務局費	25,900	27,575	▲1,675	委託費は①②のみ(島根大学)
①企画推進費	17,700	17,700	0	
ア) 事業推進コーディネーター配置費	14,200	9,300	4,900	人件費(常勤・非常勤)
イ) 企画プロデューサー配置費	3,500	8,400	▲4,900	人件費(常勤)
②管理運営費	8,200	8,200	0	
ア) 事務職員及び特定職員配置費	5,900	5,900	0	人件費(非常勤)
イ) その他経費	2,300	2,300	0	会議費、旅費、消耗品費、複写機借料、通信運搬費、光熱水料
③予備費	0	1,675	▲1,675	
合 計	58,139	60,361	▲2,222	